

令和7年度 学校経営報告書（自己評価）

学校番号	21	学 校 名	静岡県立沼津工業高等学校	校 長 名	鈴木 広隆
------	----	-------	--------------	-------	-------

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	安心安全な学校づくりを推進する	- 交通安全に気を付けていると答える生徒 100% - 交通事故件数 前 年 度 比 20%以上削減	- 交通安全に気を付けていると答える生徒 96% - 交通事故件数 R6 年間 31 件 R7/12 月末現在 34 件	B	ヘルメット着用の推進に加え、安全委員会による定期的な自転車マナー斉指導も行っているが、交通事故件数は微増した。
		地域防災訓練への参加率 50%以上	地域防災訓練への参加率 22%		地域防災訓練への参加率が低かったのには、12月の訓練実施時期にインフルエンザの流行があり、出席停止の生徒が多かった影響もある。防災意識の向上には今後も努めていく。
		清掃活動に積極的に取り組んでいると答える生徒 90%以上	清掃活動に積極的に取り組んでいると答える生徒 96%		毎日熱心に清掃活動に取り組んでおり、ごみなどが落ちていることはほとんどない。 製作実習後の清掃を取り入れられると良い。
イ	規範意識や人権意識等を醸成する	- ピアサポート研修の実施 - 信頼できる先生がいると答える生徒 80%以上	- 入学直後の生徒にピアサポート研修を実施。 - 信頼できる先生がいると答える生徒 87%	B	ピアサポート研修は、入学後の生徒の人間関係構築に役立てることができた。
		- 主権者教育、消費者教育等副教材を活用した授業・講話の実施 - SNSに関連するトラブル件数0件	- 主権者教育を公民科において実施。 - 消費者講座 1年生1月 - 人権教育講座 全学年11月 - SNSを介した指導事案が発生した。		教員と生徒とのコミュニケーションが取れている。今後も生徒との会話を大事にしていく。 人権教育講座は生徒の人権意識の向上につながっている。来年度も実施したい。 指導事案に関しては、被害者のケアを最優先に考え個別指導を行い、再発防止のため全体指導も行った。SNS事案については、啓発の方法について考慮が必要である。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ウ	基本的な生活習慣の確立、並びにたくましく生きるための健康や体力の増進を図る	欠席者、遅刻者、早退者数の削減(前年度比10%減)	欠席 1,654(1,789) 遅刻 803(757) 早退 279(270) ※2学期まで ()内はR6	A	欠席は微減したが、遅刻・早退は微増した。生徒にとって魅力ある学校づくりに取り組むとともに、生徒の生活改善への促しも行っていく。 インフルエンザによる学級(学年)閉鎖を11月以降複数回行った。生徒の感染症予防に対する意識の向上に努めたい。 校内で気持ちのよい挨拶ができる生徒は多い。就職者が多い中、社会人として必要なマナーの定着に、今後も努めていく。
		- 自らすすんで挨拶をしていると答える生徒80%以上 - 服装・頭髪など身だしなみに気を付けていると答える生徒90%以上	- 自らすすんで挨拶をしていると答える生徒97% - 服装・頭髪など身だしなみに気を付けていると答える生徒94%		令和4年度以降、朝食摂取率はほぼ横ばいである。 深夜のゲームなど、不規則な生活から抜け出せない生徒が例年一定数いる。 要受診者には、お知らせの配付、個別指導、保護者連絡を実施して受診につなげた。 課題解決のため、「ほけんだより」による呼びかけや保健室に来室した生徒への丁寧な健康アドバイスを実施した。 生徒たちに健康意識が根づくまで、時間をかけて取り組んでいく。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
エ	魅力ある授業づくりを通し、学習内容の確実な定着を図る	- 先生の話をよく聞いていると答える生徒 100% - 課題等に意欲的に取り組んだと答える生徒 90%以上 - 年2回の「授業参観週間」の実施	- 先生の話をよく聞いていると答える生徒 93% - 課題等に意欲的に取り組んだと答える生徒 88% 7月と9月に授業参観週間を設定。1月にも公開授業を実施した。	B	多くの先生方がICTを活用し工夫した授業を展開している。その結果、意欲的に授業や課題へ取り組む生徒、授業の内容を理解する生徒が多くなっている。 さらにICTや授業参観での情報交換を有効的に活用し興味関心を持てる授業、分かりやすい授業を行っていく。
		- ICTを活用して授業を実施する教職員 100% - 生徒から、授業が分かりやすいと答えられた教員 90%以上	- ICTを活用して授業を実施する教職員 80% - 終業式や外部講師による講話などの際にライブ配信を行うなど、授業外でも積極的にICT機器を活用した。 - 授業アンケートで先生の説明や教え方はわかりやすい 80.5%		生徒の1人1台端末等、校内でICT機器の整備が進んだことがICT活用率の上昇につながっている。 教職員間でのICT活用の差を埋めるため、今後はICT環境のさらなる整備、実践事例の共有を推進する必要も感じる。
		- 就職内定率 100% - 大学進学希望者の試験合格率 90%以上 - 外部機関模試の活用推進 - 社会人講話等の満足度 90%以上	- 学校推薦での就職希望者の内定率 99.2%(12月中旬) - 大学進学希望者合格率 92.3% - 外部模試（就職、進学）は例年通りの実施。 - 社会人講話等の満足度 86% (進路指導部調査：95.5%)	A	就職は、例年どおり年内にほとんどの生徒が内定を得た。不合格理由を「面接での内容等」とする企業が多かったため、早い段階からの面接指導の必要がある。 大学進学については、総合型選抜で不合格が多く、基礎学力に加え、プレゼン能力のレベルを上げる必要を感じる。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	これからの時代を生き抜く人材育成のための産業教育を推進する	・ものづくりに関心があると答える生徒95%以上 ・技能検定及び国家試験等の受検者数、合格者数の増加	・ものづくりに関心があると答える生徒91% ・技能検定の職種が増え、マシニングセンターや機械保全等の職種にチャレンジする生徒が増加し、合格者も増加している。 【機械】 ・第二種電気工事士24名、第一種電気工事士20名合格。 ・電気主任技術者科目合格者が数名。 【電気】 ・第二級陸上特殊無線技士に電子ロボット科3年生全員合格。 【電子ロボット】	A	電気関係企業に出前授業を依頼し実践的な学習を実施し、進路選択についての学習もできた。【電気】 沼津建設業協会との連携による現場見学や測量実習を行った。 【建設・都市環境】 大学や行政、地域産業との連携も積極的に進めており、専門性の高い教育の中で生徒は学びの楽しさやものづくりの技術・技能、奥深さを体感している。 今後も生徒のニーズに合わせて、学科間はもちろん外部の産学官の連携協力体制をつくっていくことが必要である。 技能検定や工事士の資格取得について、高水準の合格率を維持している科や国家試験へ積極的に挑戦する生徒が増加し、合格者が例年に比べ増加した科があった一方で、1年生が全員受検した情報技術検定の合格者が昨年より減少した科もあった。 アルバイトと放課後の補習等の両立が難しく、時間がかかるものの製作や検定のための学習には、特定の生徒のみが参加する場合も少なくない。アルバイトをしている者とそうでない者の間に、技術や知識の差がひらいてしまう懸念がある。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	これからの時代を 生き抜く 人材育成 のための 産業教育 を推進す る	・ものづくりに 関する各種コ ンクール、競 技会等での上 位入賞者数の 増加	・ものづくり競技大 会への参加 ・県高校生エコラン 大会への参加 ・建築甲子園への参 加 ・県高校生ロボット 競技大会への参加 ・W R O (WORLD ROBOT OLYMPIAD) への参加 ・ロボットアイデア 甲子園に参加。 ・山形大学 SEPS (ス ーパーエンジニアプ ログラミ ングスクール) への参加 ・日本リハビリテー ション工学協会主 催の福祉機器コン テストに参加 ・県高等学校工業教 育研究会の生徒研 究発表会への参加	A	旋盤、溶接、シーケンス制御、木材加工、化学分析、測量の各部門に参加。 【各科】 ロボット部門に3年生が4チーム参加。【電子ロボット】 電気自動車部門に2台、燃料電池自動車部門に1台が参加。 【テクノクリエイション部】 静岡県予選に3年生4名が参加。 【建築】 自律型ロボット競技に出場。 【電子ロボット】【テクノクリエイション部】 オンライン全国大会に出場 【ロボット制御部】 県中・東部大会で敢闘賞を受賞。 【ロボット制御部】 作品が優秀賞を受賞。【電子ロボット】 製作したアシストスーツをエントリーし、最終選考まで進出。【機械】 アシストスーツの研究発表を行い工業教育研究会会長賞(準優勝相当)を受賞。【機械】 ものづくりに関する大会に積極的に参加する生徒が増加している。 ものづくり競技会に向けた実技の練習など、放課後、熱心に教員と生徒で準備を進める姿が見られる。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
オ	これからの時代を 生き抜く 人材育成 のための 産業教育 を推進す る	・校外での発表、 展示会等への 積極的参加	・未来の科学技術者 フェスティバルに 参加。 ・こども夏だいがく に参加。 ・企業との連携によ るものづくりワー クショップを実 施。 ・子ども学習支援を 実施。 ・小学校、中学校へ の出前授業を実 施。 ・ファルマバレー展 示会への参加。 ・ミニミニ水力発電 コンテストにボラ ンティア参加。	A	金属製のドッグタグ作り体験を行っ た。【機械】 ドッグタグ作り、ミニチュアいすづく り、ロボット操作体験などを行った。 【機械】【電子ロボット】【建築】 丸善工業とのおもちゃづくり、木村鋳 造所とのキーホルダーづくりのワー クショップを行った。 【機械】【電子ロボット】 第三地区センターでプログラミング 教室を実施。【ロボット制御部】 第二小学校でのプログラミング出前 授業を実施。【電子ロボット】 清水南中での家庭科の授業にアドバ イザーとして参加。【建築】 医工連携の試みとしてアシストスー ツの展示を行った。【機械】 運営のボランティアを行った。 【生徒会】
		・生徒の実情に 合わせた教育 課程の検討・ 編成 ・学科間の連携 によるものづ くりの推進	・「課題研究」で連携 し、モデルハウス を作成した。 ・建築科の生徒にも 電気工事士資格取 得の指導を行い、 合格者が出た。 【電気・建築】		継続して生徒、地域の実情に合わせた 教育課程の検討を行っていく。 課題研究の授業等での科同士の相互 乗入や、大学、行政、地域産業と図れ るような体制づくりを積極的に行っ ていくことが必要。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
カ	活気に溢れ魅力ある学校教育を推進する	- 部活動計画書・報告書の定期的な提出と活動時間および帰宅時刻の徹底 - 各部の掲げた目標を半数以上の部が達成する - 部活動に意欲的に取り組んでいる生徒の割合 80%以上	- 部活動の活動時間については、ガイドラインを概ね遵守した形で実施されている。計画書・報告書の提出も概ね実施できている。 - 多くの部が目標とする上位大会等への出場を果たし、地域での活動も活発に行っている。 - 部活動に意欲的に取り組んでいる生徒の割合 71%	B	部活動の活動計画や活動報告を定期的にホームページ上で更新している部活動もあるが、すべての部活動の足並みがそろよう努めたい。 今年度も、東部地区の予選を突破し、県大会に進出する運動部が多数あった。ボート部は高校総体など複数大会、複数種目で全国大会に進出。レスリング部も選抜大会で東海大会に出場した。文化部では、ロボット制御部がWROのオンライン全国大会に出場した。また、山岳部は小山町から環境保全活動等表彰を受けた。 今年度も、部活動指導員（ボート）、スポーツエキスパート（バレー）、文化の匠（美術）などの外部指導者を活用し、部活動顧問の負担軽減につなげた。 今年度より、部活動への加入を完全任意制としたが、1年生の部活動加入率は87.6%と高く、生徒の部活動への意欲は高い。 定員減の中、地域移行やさらなる部活動の統廃合など、生徒の活動の場の保障と教員の負担減のための策を講じる必要がある。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	
カ	活力に溢れ魅力ある学校教育を推進する	・学校生活に満足していると答える生徒 90%以上 ・学校が楽しいと答える生徒 90%以上 ・学校行事に意欲的に取り組んでいると答える生徒 90%以上	・学校生活に満足していると答える生徒 90% ・学校が楽しいと答える生徒 90% ・学校行事に意欲的に取り組んでいると答える生徒 95%	A	体育大会では3年生が科の生徒をよくまとめ、科応援を完成させた。 文化祭、体育大会などの学校行事を通して、真剣に取り組むことで、より大きな楽しみが得られることを学ばせたい。 学校行事の精選を行うとともに、生徒自身が主体的に参加する行事へ内容を見直している。今後もより主体的に活動できる学校行事の検討を行う。	
		・研修・研究の評価実施 ・研究評価大会・外部研究助成への積極的エントリー	・コンテストへの参加等を通して外部の機関や団体に評価をいただき、生徒へのフィードバックを積極的に行っている。 ・はごろも教育研究助成に応募して採択され、助成金を生徒の研究活動に活用した。【機械】 ・天野工業研究助成における成果発表を行った。【電子ロボット】 ・JKA補助事業への申請を行い、産業用ロボット購入に努めた。【電子ロボット】 ・三島信用金庫からの助成を受け、課題研究の授業で活用した。【建築】	A	生徒の製作活動に必要な財源の確保のため、今後も外部の研究助成の活用を積極的に進めたい。 外部研究助成として、はごろも教育研究助成に応募し、採択された。課題研究を中心として生徒の研究活動や製作部品、消耗品に活用することができた。【機械】 2024 年に天野工業研究助成金で研究した内容について、県の代表として発表を行った。【電子ロボット】 JKA補助金へ産業用ロボットを申請しており、3月に発表がある。【電子ロボット】 外部（三島信用金庫）助成金にエントリーし、地域貢献（ベンチ寄贈）につながる活動ができた。【建築】	

様式第3号

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題	
キ	教育予算の適正かつ効果的な執行に努め、生徒の学習環境を改善・充実する	施設・設備・備品の整備・充実により、安心して教育活動が行えると答える教員80%以上	限りある予算の中で、適切な予算執行を実施し、備品等の整備充実を図った。 毎月の職員会議後に安全衛生委員会を実施し、職員からの要望を吸い上げ、対応した。	A	学校経営予算が毎年減少する中、事業内容の見直し等、より効果的な執行に努める。 休養室のロッカーや職員駐車場までの通路の段差など、職員安全衛生委員会で挙げられた不具合箇所の改善をその都度行った。	
		- 定期的な校内安全点検の実施 - 要改善箇所の低減	P T Aと連携し、校内の安全点検を実施した。 事務室・管理職による定期的な校内点検を行い、要改善個所の修繕を行った。		点検の結果、改善が必要と判断された箇所について、情報共有を図り、対応していく。	